

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画 (開催後報告書) の方向性について



2025年10月1日
公益社団法人2025年日本国際博覧会協会



開催後報告書 取りまとめの考え方（案）

- ・取組の実績と評価を記述する。うまくいかなかったものも課題を極力率直に記述する。
- ・博覧会協会以外のよい取組も積極的に取り上げて記述する。

開催後報告書 目次(案)

第1章 はじめに

- 1.1 大阪・関西万博が目指すもの
- 1.2 博覧会協会の組織運営における統治原則
- 1.3 持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針
- 1.4 持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針とSDGs
- 1.5 持続可能性に配慮した運営
- 1.6 行動計画の適用範囲
- 1.7 大阪・関西万博のこれまでの準備状況開催状況

第2章 ISO20121に則した持続可能性マネジメントシステム

- 2.1 ISO20121に則した持続可能性マネジメントシステム

第3章 持続可能な万博の運営にむけた指標・取組

- 3.1 People(いのち、ひと、健康、福祉)
- 3.2 Planet(生態系、環境)
- 3.3 Prosperity(サプライチェーン、バリューチェーン)
- 3.4 Peace(平和、公正、インクルーシブネス)
- 3.5 Partnership(協働)

第4章 持続可能な大阪・関西万博全体の指標

下線部に取組、課題、会期中の改善、評価を記載。



持続可能性有識者委員会、WGの開催状況と今後の予定

【開催状況】

2025年1月16日	第11回持続可能性有識者委員会 持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画(開催前報告書)及びEXPO 2025グリーンビジョンについて
6月30日	第13回持続可能な調達WG
7月17日	第6回資源循環WG
7月24日	第10回脱炭素WG
8月4日	第4回人権WG

※上記のWGについては、大阪・関西万博会場で開催

【今後の予定】

各WGを1回以上開催し、報告書に記載する事項についてご議論をお願いする予定。

2026年2月頃に第13回持続可能性有識者委員会を開催し、報告書についてご議論をお願いしたい。



1.7 大阪・関西万博の開催状況について



大阪・関西万博の開催状況（概要）



2025年9月27日現在

累計来場者数 25,136,185人
(うちAD証入場者数 3,063,468人)

2025年9月26日現在

累計チケット販売数 22,019,387枚

チケット販売数(券種別)

	チケット販売数 (累計)	うち、 会期前販売数
一日券	10,741,092枚	7,613,333枚
平日券	4,408,567枚	一枚
夜間券	2,108,622枚	一枚
特別割引券	632,021枚	74,700枚
通期パス	404,393枚	57,866枚
夏パス	277,566枚	34,507枚
3歳以下無料券	466,287枚	53,151枚
一般団体割引券	448,168枚	45,003枚
前期学校団体割引券	553,570枚	23,289枚
後期学校団体割引券	103,326枚	4,428枚
こども招待一日券	309,753枚	222,750枚
大人招待一日券	10,388枚	7,740枚
開幕券	454,949枚	454,949枚
前期券	1,100,685枚	1,100,685枚
合計	22,019,387枚	9,692,401枚



大阪・関西万博の開催状況（概要）

イベントの実施状況(2025年6月末)

催事施設など	回(日)数	集客数	主なイベント(回数)
EXPOホール	60回	98,039人	Physical Twin Symphony(22回)、徹子の部屋(1回) 欽ちゃん&香取慎吾の全日本仮装大賞(1回)
ナショナルデーホール	69回	41,500人	ナショナルデー(42回)
EXPOアリーナ	37回	290,670人	Ado OPENING SPECIAL LIVE(1回)、 LDH DAY SPECIAL "Jr. EXILE LIVE"(1回)
EXPOメッセ	65日間	447,085人	SASUKE(8日間)、Japan Expo Paris in Osaka 2025(2日間)
ギャラリーWEST	37日間	46,931人	毎日新聞 点字考案200年(6日間)
ギャラリーEAST	45日間	77,398人	生け花の根源 池坊展(8日間)、日本刀展(5日間)
ポップアップステージ(5か所)	286回	75,839人	着物ショー、海外コンサート
フェスティバル・ステーション	77回	45,353人	関西 12 局ラジオ合同特番「KANSAI EXPO RADIO」
ウォータープラザ(昼間)	355回	379,110人	水と空気のシンフォニー(141回)、水と空気のマジカルダンス(18回)
アオと夜の虹のパレード	100回	456,100人	1日2回
プロジェクションマッピング	105回	19,500人	1日2回
One World、One Planet.	53回	—	1日2回
パレード(公式参加国)	12回	—	グレナダ、トルコ、サンマリノ、チリ、韓国、カナダ、パラグアイなど
万博サウナ	230回	3,220人	太陽のつぼみ(1日5回)
その他	7回	1,652人*	一万人の第九、Love Stone Project EXPO 2025(6回)
合計	1,538	1,982,397人	



大阪・関西万博の開催状況（概要）

ブルーインパルス展示飛行

（防衛省・自衛隊により2025年7月13日,14日実施）



花火

（2025年6月28日等、土曜日を中心に実施）



第2章 ISO20121に則した持続可能性マネジメントシステム



2.1 ISO20121に則した持続可能性マネジメントシステム

【取組状況】

大阪・関西万博では、イベントの持続可能性管理システム（Event Sustainability Management System, ESMS）を構築、2023年4月から運用中。2024年8月には国際規格ISO20121の認証を取得。2025年度は認証機関によるISO認証維持のための審査を実施中。

【実績】

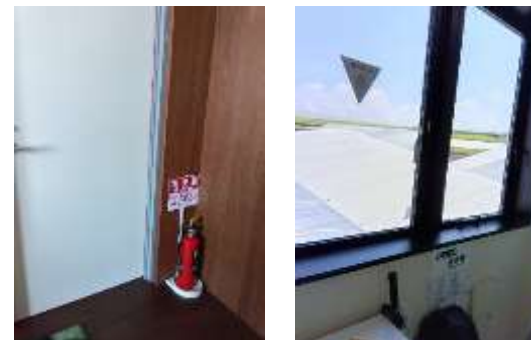
持続可能性の観点で、会期中に現地で確認が必要な項目について、「SUSパトロール」を実施。

⇒ガイドライン等に沿った取組の確認に加え、他への波及が期待できる好事例の抽出を積極的に行い、報告書等で結果を公表。

SUSパトロール実施状況(2025年8月末)

種別	件数
海外パビリオン	5
国内パビリオン	7
営業施設など	78

SUSパトロール現地確認(消防設備)



SUSパトロール現地確認(ごみ分別)



SUSパトロール現地確認(スタッフ用設備のハラル対応表示)



第4章 持続可能な万博の運営にむけた指標・取組について



持続可能な大阪・関西万博全体の持続可能性に関する代表的指標

● インクルーシブな万博運営に関する指標：

(1) 人権デュー・ディリジェンス（人権DD）を実施する初の万博

- ・大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」が実現されるために、万博に関わる一人ひとりの人権が尊重される必要性があることを認識し、人権尊重の取組として人権DDを実施する。

(2) ユニバーサルデザイン・ユニバーサルサービスガイドラインに基づいて運営する初の万博

- ・大阪・関西万博では、原則として、会場内のすべての建築物において国の「望ましいレベル」以上のユニバーサルデザインを目指す。
- ・さらに、万博としては初めてユニバーサルサービスについて独立したガイドラインを定め、誰もが楽しいひと時を過ごすことができる大阪・関西万博を目指す。

● カーボンニュートラル実現に関する指標：低炭素な会場からグリーンチャレンジを世界へ

● サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでゴミ減量

● 地域産業への活性化寄与に関する指標：中小企業、スタートアップの発信機会、新たな共創(co-create)を創出

- ・中小企業の参画数を増やしていくことについて、協賛者のうち中小企業の数を進捗管理の指標とする。

● 一人一人がつながるコミュニティ形成に関する指標：参加者の中から約3,000組を募集し、万博会場で、これまでの成果を発表するとともに、来場者、出展者同士など多くの方と「対話」し、未来社会の実現に向けた新たな「共創」を生み出すことを目指す。

- ・多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑む、みんながつくる参加型プログラム、「TEAM EXPO 2025」プログラムを実施し、プログラムに参加いただいている「共創チャレンジ」「共創パートナー」を中心に様々な方が参加し、新たな「共創チャレンジ」を生み出し・育てていく場を提供する。

インクルーシブな万博運営に関する指標

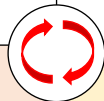
人権デュー・ディリジェンス（人権DD）を実施する初の万博

【取組】

博覧会協会は、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」が実現されるために、万博に関わる一人ひとりの人権が尊重される必要があることを認識し、人権尊重の取組として人権DDを実施する。

また、2030年をゴールとする「持続可能な開発目標」（SDGs）を達成すべく、博覧会事業に携わるすべての人の人権を尊重するとともに、人権尊重に関する様々な展示や各種の催事などを通じ、テーマに基づく多様な考え方を国内外に発信し、会期後も社会に広く普及していくように努める。

(1)人権への負の影響(リスク)の特定 (万博運営において可能性のある人権侵害を特定)		(2)人権に関する負の影響の予防・軽減 (人権侵害が起こらない仕組みづくり)	
P ・事務局において負の影響を受ける可能性がある人 (ライツホルダー)を抽出し、たたき台として有識者委員会で議論 ⇒人権WGにおいて特定にむけた議論		D ・ESMSの構築・運用 ・調達コードの運用 ・リスクマネジメント ・ユニバーサルGL ・人権に関する研修 ・協会内人権相談窓口	
A (4)情報提供(開示) (協会が人権DDにどう取り組んだか公表)		C (3)チェック(評価) (仕組みがしっかりと機能しているか検証)	
・調達コード(通報受付、モニタリング)実施結果 ・持続可能性有識者委員会(議事録公表) ・持続可能性行動計画(公表・意見募集) ・活動の開示		・ESMSの運用 ・調達コードの運用(通報受付、モニタリング) ・総合コンタクトセンターの運用 ・人権WG、持続可能性有識者委員会における評価	



【実績】

人権に関する通報受付窓口における通報受付の状況
受付件数 120件 (2025年7月末)

(通報者の属性)

(通報の種別)

通報者	件数	種別	件数	種別	件数
本人	89	ハラスメント	17	障がい者の権利	27
家族	8	安全・衛生	18	子どもの権利	3
関係団体	3	差別	16	表現の自由	2
第三者	20	労働者の権利	20	プライバシー	5
		ハラスメント・労働者の権利	4	その他	8

(受付した通報の例)

受付番号	通報者	種別	通報内容	処理状況
1	本人	ハラスメント	外部イベントにおける協会職員のハラスメント発言に関する申し立て。	協会幹部より被通報者に注意を行うとともに、通報者に謝罪を行い、本通報受付窓口における手続を終了した。
2	本人	差別	協会制作物等における多様性への配慮に関する申し立て。	被通報者・関係者に多様性への配慮について周知するとともに、通報者に報告を行い、本通報受付窓口における手続を終了した。
3	関係団体	障がい者の権利	チケット購入や万博会場における対応に関する申し立て。	被通報者に調査を行うとともに、通報者に改善内容等について報告し、本通報受付窓口における手続を終了した。
4	本人	差別	協会製作物等における差別への配慮に関する申し立て。	被通報者に頂戴した意見を共有するとともに、通報者に報告を行い、本通報受付窓口における手続を終了した。
5	関係団体	安全・衛生	万博会場における工事作業員の通行やトイレ利用に関する申し立て。	被通報者に調査を行うとともに、通報者に改善内容等について報告を行い、本通報受付窓口における手続を終了した。
6	関係団体	安全・衛生	万博会場における工事作業員の安全に関する申し立て。	被通報者に調査を行うとともに、通報者に調査・対応結果の報告を行い、本通報受付窓口における手続を終了した。

⇒可能な範囲でこれらの対応状況を記載していく。



【取組状況】

- ・ユニバーサルデザインについては、各施設の建築段階で確認を実施。
- ・ユニバーサルサービスについては、苦情への対応状況などを踏まえて改善を行った。

【実績】

- ・会場内で体調が悪くなったり、けがをした来場者に対応するため、診療所（3か所：医師・看護師在中）及び応急手当所（5か所：看護師在中）で応急措置を実施。
- ・車いす・歩行補助器具等の貸出や、筆談や手話による対応など様々な配慮を必要とする方への総合サービス拠として「アクセシビリティセンター」を設置。
- ・Expo 2025 公式触知図（線や図形を盛り上げて点字を施したマップ）を制作し、会場内でご利用いただくとともに、視覚障がい者の学校・施設・団体に配布。
- ・視覚障がい者、多言語向けの移動を支援する音声情報提供アプリNaviLens（ナビレンス）で会場内に設置されたナビレンスコードをスマートフォンで読み取ることで、位置情報や目的地までの距離等をお知らせ。

- ・これらの情報をまとめて公式ウェブサイト「ユニバーサルサービス・サポート」ページで公表。
(URL)<https://www.expo2025.or.jp/universalinfo/>
- ・サステナビリティパトロールとして、持続可能性局の職員がパビリオン等におけるユニバーサルサービス・ユニバーサルデザインの実施状況を確認。

客席の車いすスペースと介助者席



ナビレンスコードの設置例



ユニバーサルサービスについては、協会以外の取組もしっかり取り上げて記載する。

【取組の例】一般社団法人関西イノベーションセンター「LET'S EXPO」

万博に協賛いただき、高齢者や障がい者、当事者を支える周りの方等到大阪・関西万博を楽しんでもらうためのユニバーサルツーリズムを提供いただいている。

【リアル】工夫すれば行ける対象者に、万博を訪れる機会を提供（受入体制整備等）

【バーチャル】それでも行くことができない対象者に、バーチャルでの万博体験機会を提供

会場で万博を体験するために、介助が必要な方向けのサポートを実施（介護有資格者と研修受講者の2名のボランティアで対応）

- 1.車いす移動サポート
- 2.視覚障がい者の移動サポート

（利用者の様子）



【出典】一般社団法人関西イノベーションセンター
プレスリリース資料

ボランティアによるサポートは利用者がボランティアスタッフ活動費（1名2,000円）を負担

【出典】一般社団法人関西イノベーションセンター「LET'S EXPO」ウェブサイト(<https://www.lets-expo.jp/>)より抜粋



カーボンニュートラル実現に関する指標：低炭素な会場からグリーンチャレンジを世界へ 温室効果ガスの排出量推計と目標設定(Scope1,2相当(会期中の会場内での排出等))



【実績】 GHG排出量（削減対策をしなかった場合(BAU)及び実績(7月末時点速報値)）

Scope	排出源	GHG排出量 BAU [t - CO ₂ e]	省エネ努力以外の主な削減方法	GHG排出量 実績 [t - CO ₂ e] (7月末時点速報値)	(通期での外挿)
1	会場内の施設で使用する燃料	4,979	—	1,261	2,109
	会場内輸送で使用する燃料	162	電気自動車(EV)の導入や 合成燃料、バイオ燃料の使用等	343	574
	会場内、会場外の施設におけるエアコン稼働によるフロン漏洩	72	地球温暖化係数の小さい資機材の利用を推奨	(調査中)	-
2	会場内、会場外の施設で使用する電力	31,080	排出係数ゼロの電力の使用	0(13,005*)	0(21,754*)
	会場内輸送で使用する電力	9	排出係数ゼロの電力の使用	(上記に含む)	-
	博覧会協会事務所、会場外駐車場で使用する電力	2,527	会場外駐車場は排出係数ゼロの電力の使用	679(784*)	1,136(1,311*)
	博覧会協会事務所（咲洲・ATC）で消費する熱	302	—	210	351
合計		39,133		2,493(15,603*)	4,170(26,100*)

注：四捨五入等により数値が合わない場合がある。削減対策をしなかった場合(BAU)の排出量は予算や事業の計画から推計したもの。

*：実際のGHG排出量はゼロになるが、一般的な電力使用に伴う排出係数で算出した値も併記している。

【7月24日の脱炭素WGでの委員コメントを踏まえたこれまでの考察】

- ・ Scope 1「会場内の施設で使用する燃料」は、空調用の冷水供給に係る燃料消費が主だが、各施設の空調機器の高効率化や、冷水供給施設において電気式の熱源機器を優先して使用していることをうけて、BAUを下回っている。
- ・ Scope 1「会場内輸送で使用する燃料」は、協会手配の輸送のほか参加者の手配する輸送が想定を大幅に上回り、BAUを上回っている。
- ・ Scope 2「会場内、会場外の施設で使用する電力」や「博覧会協会事務所、会場外駐車場で使用する電力」などの電力消費に係る項目は、BAU算出の際に参照した愛・地球博の時点から機器が高効率化したことにより、BAUを下回っている。

カーボンニュートラル実現に関する指標：低炭素な会場からグリーンチャレンジを世界へ 温室効果ガスの排出量推計と目標設定（Scope3相当（会期前後や会場外の排出））



【実績】 GHG排出量（削減対策をしなかった場合(BAU)及び2025年7月末時点速報値）

カテゴリ	排出量 [t-CO ₂ e] (BAU)	削減方法	排出量 [t-CO ₂ e] (2025年7月末時点、速報値)	(通期での外挿)
カテゴリ1（購入した製品・サービス）	113,974	調達物品等の製造・流通等におけるエネルギー低減や低炭素エネルギーの利用を推奨	(会期後に確定)	-
カテゴリ2（資本財）	361,700	リース、木材の積極的な活用 低炭素型素材等の積極的な活用	(会期後に確定)	-
カテゴリ3（Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）	14,283	－	5,182	8,668
カテゴリ5（事業から出る廃棄物）	2,749	食品ロス削減、食品リサイクル プラスチックの利用削減（リユース食器等）	563	942
カテゴリ6（出張）	3,545	排出量の少ない移動手段の利用	(会期後に確定)	-
カテゴリ7（通勤）	2,533			
カテゴリ12（販売した製品の廃棄）	167,343	建物、機器の再利用 リースの積極的な活用	(会期後に確定)	-
その他：来場者 (国内・海外から計2,820万人を想定)	2,858,622	排出量の少ない移動手段の利用 来場者用シャトルバスのEV化、合成燃料等の導入	1,424,798	2,383,298
合計	3,524,747		1,430,150	2,392,908

【排出状況に関する考察】

- ・「カテゴリ3」について、Scope 1, 2の実績と同様にBAUを下回っている。
- ・「カテゴリ5」について、7月末時点においては一般的に会期後半に来場者数が集中すること、来場者一人当たりの廃棄物の排出量自体が少ない（重量ベースでBAUの約半分）ことから、GHG排出量もBAUを下回っている。なお、現時点の廃棄物排出量データは、協会が管理する処理施設に搬入されたもので、パビリオン・出展者が独自で処理したものを含まない。
- ・カテゴリ「その他：来場者」については、7月末時点においては海外からの来場者に占める欧州・北米の割合が想定を上回ったため移動に係るGHG排出量が増え、1人当たりの排出量はBAUの約1.2倍となっている。

2050年に向けた脱炭素社会の具体像の提示

【取組状況】

- ・ 2050年やその先の未来を見越した技術として、(1)水素 (2)再エネ (3)カーボンリサイクル (4)省エネ など脱炭素に向けた革新的技術を導入し、会場内外に発信している。

(記述例)

カーボンリサイクル技術

大気や排気ガスからCO₂を回収し、メタネーション技術により会場内の給湯設備や厨房向けの燃料として利用



見学者数 約21,000名 (9月19日時点)

⇒管理区域に位置しており来場者の輸送に制約ある（徒歩での来場不能）中、好評を得ている。



カーボンリサイクルファクトリー 展示の状況

未来の森



化けるLABO



地球の恵みステーション



< 見学の状況 >



サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユースでごみ減量
資源循環に係る排出量推計と目標設定（会場運営関係）



- 2005年の愛・地球博や直近のアミューズメント施設の排出量から何も対策をしなかった場合の廃棄物の排出量を種別に推計（BAU）
- 使い捨て食器の使用量削減やマイボトルの持ち込み推奨等による排出量の削減目標を掲げ、BAUに対して削減対策実施後の排出量を推計
- サブストックヤードに持ち込まれた2025年8月末時点の実績を下表に追加（赤字）
- 廃棄物はサブストックヤード～メインストックヤードにて分別が不十分なものは一部再分別され、またSSYを経由しない廃棄物もあるため、赤枠内は速報値
- 最終的にはサブストックヤードを経由しない廃棄物を含め、会期中の廃棄物全体を取りまとめ報告予定

種別	BAU	削減目標				2025年8月末時点（速報）		リサイクル目標	
	排出量 [t]	削減量 [t]	削減率 [%]	削減後量 [t]	原単位 [g/人]	排出量[t]	原単位 [g/人]	リサイクル量 [t]	リサイクル率 [%]
缶	42.8	-	-	42.8	1.5	39.0	2.3	699.3	100.0
びん	611.5	-	-	611.5	21.7	161.2	9.6		
業務用缶	45.0	-	-	45.0	1.6	13.9	0.8		
ペットボトル	562.8	188.2	30.3	433.5	15.4	208.6	12.5	433.5	100.0
ペットボトルキャップ	58.8					12.1	0.7		
発泡スチロール・発泡トレイ	5.6	139.9	25.0	419.8	14.9	3.1	0.2	419.8	100.0
プラスチック類	554.1					119.8	7.2		
段ボール	1,711.7	-	-	1,711.7	60.7	667.0	39.8	1,711.7	100.0
紙類	110.4	61.1	55.4	49.2	1.7	61.3	3.7	49.2	100.0
生ごみ（食品廃棄物）	1,501.2	321.2	21.4	1,179.9	41.8	295.8	17.7	1,179.9	100.0
廃食用油	110.4	-	-	110.4	3.9	76.5	4.6	110.4	100.0
燃やすごみ	4,181.4	721.9	17.3	3,459.5	122.7	1313.1	78.4	94.6	2.7
堆肥化可能な食器類									
割り箸									
木製パレット									
紙おむつ									
燃やさないごみ・混合廃棄物	212.8	10.0	4.7	202.8	7.2	34.4	2.1	19.3	9.5
汚泥（グリストラップ）									
合計	9,708.5	1,442.3	14.9	8,266.2	293.1	3005.8	179.5	4,717.8	57.1

注：四捨五入等により数値が合わない場合がある。BAUは、対策をしなかった場合の排出量推計値

万博会場内におけるリデュース・リユースに関する取組例

■ 使い捨て買い物袋の配布対策

- ・ 来場者にマイバッグ持参の呼びかけ
- ・ 出展者・営業参加者にはエコバッグ、手さげの紙袋の販売の義務付け



⇒使い捨ての抑制とプラスチックの利用を削減

■ リユース食器の導入

- ・ 使い捨て食器を多く用いるフードトラックエリアへのリユース食器の導入



⇒使い捨てプラスチック食器の利用を削減

■ マイボトルの利用促進

- ・ 給水スポットを約86か所設置
- ・ 来場者にマイボトル持参の呼びかけ



⇒PETボトルの利用量を削減

■ 食べ切りを呼びかけ、食べきれる量のメニュー提供

- ・ 来場者への食べ切りの呼びかけ
- ・ 小盛メニューなどバリエーションを増やす



⇒食品廃棄物の発生を抑制



サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユースでごみ減量

(参考)万博会場内で発生した廃棄物のリサイクル対策例

■ ペットボトルの水平リサイクル

- 使用済のペットボトルを
ペットボトルに水平リサイクル



出典：PETボトルリサイクル年次報告2023
(PETボトルリサイクル推進協議会)

■ 生ごみのバイオガス化・堆肥化

- 会場内で発生する食べ残しや
非可食部などを会場内でバイ
オガス化、会場内のコンポスト
機で堆肥化、会場外の堆肥化
施設にて堆肥化



出典：大阪ガス株式会社

■ 生分解性プラスチックの堆肥化

- フードトラックエリアの一部で使用する
生分解性プラスチックを会場内で発
生する食品廃棄物と一緒に堆肥化



■ 難再生古紙の再資源化

- 会場内では脱プラ・減プラを求めて
おり、プラスチックの代替素材として
紙の利用増が見込まれる
- そのため、リサイクル困難な使用済
の紙製食器などをリサイクル



サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでごみ減量 (施設設備関係)

【大屋根リングの残置】

出資者である行政・経済界と協会からなる「大屋根リングの活用に関する検討会」において、健全性の調査等を経て大阪府・大阪市が万博を記念する公園・緑地等として整備、維持管理することを検討し、市議会、府議会の議論を経て、ヘルスケアパビリオン跡地ゾーンの隣接地域約200m(下図赤点線囲み部分)を残すこととなった。



【大屋根リングのリユース】

第1次公募で約700㎡、2次公募で約1500㎡の応札を終えたところ。今後も供給量と会場建設費の制約の範囲内で可能な限り リユースを実施する。

サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでごみ減量 (施設設備関係)

【ミyak市！を活用したリユースの促進】

2024年8月より万博サーキュラーマーケット「ミyak市！」を立上げ、リユースの情報収集、出品・入札管理などを実施。

I. シグネチャーパビリオン等のリユース

いのちめぐる冒険(河森館)を構成する「セル」について、45セルをセットとして出品。(施設移築)

いのちの未来(石黒館)については、アンドロイド7体及び付属品を出品。(特徴的な設備リユース)

いのち動的平衡館(福岡館)については、立体的なシアターシステム「クラスラ」及び付属品をセットで出品。(特徴的な設備リユース)

EARTH MART(小山館)について、萱屋根、床材を出品。(特徴的な建材等リユース)

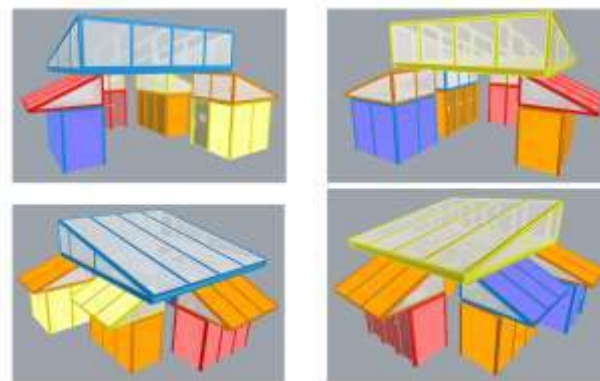
レイガーデン(小催事場)については、LEDビジョン、天井角材、床材タイルを出品。(設備、建材リユース)

トイレW41(トイレ5)については、4ユニット×2を出品。(施設移築)

トイレW41(トイレ5)



(4棟+クラウン)活用例



サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでごみ減量 (施設設備関係)

Ⅱ. 建材・設備等のリユース

2025年3月10日以降、解体工事が必要な協会財産613点を8回に分けて出品し、260件の応札あり(9月末時点)。

引き続き、協会財産および公式参加者が万博で使用した物品等について公募を実施予定。



ILB



マンホール蓋



案内サイン



照明柱



照明



トイレ衛生機器

Ⅲ. 什器・備品等のリユース

解体工事を必要としない、比較的小型で軽量の協会財産(約1,000点に整理)、および公式参加者が万博で使用した什器・備品等について、10月より2回の公募(最大4回の入札)を実施予定。

<出品予定の商品の例>

制作物(シグネチャーパビリオン内における展示物, 造作物, ミャクミャク像 等)

ICT機器、通信機器、オフィス什器、その他備品(パラソル, 温度計, バッテリー, 時計 等)

サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでごみ減量 (施設設備関係)

【国内パビリオンのリユース予定】 写真は博覧会協会公式ウェブサイトより引用

ウーマンズ パビリオン



©永山祐子建築設計

ドバイ万博の「日本館」
↓
2025年大阪・関西万博
「ウーマンズ パビリオン」の部材
↓
2027年国際園芸博覧会
屋内出展施設(仮)のファサード

出典：(有)永山祐子建築設計事務所ウェブサイト

ブルーオーシャン・ドーム



©ZERI JAPAN

モルディブ共和国内へ
移設予定

出典：同パビリオンウェブサイト

【海外パビリオンのリユース予定】

オランダパビリオン



Copyright: AND BV | Plomp

淡路島に移設へ
パソナグループと
基本合意書を締結

出典：パソナグループパビリオンウェブサイト

ルクセンブルクパビリオン



© STDM architects

・部材を大阪府交野市に移転し再利用することについて協議する趣意書を
調印

出典：交野市ウェブサイト

・約542tのコンクリートブロックをネスタリゾート神戸で再利用すること
に合意し覚書に調印

出典：ネスタリゾート神戸ウェブサイト

・天井膜をバッグヘアップサイクル

出典：バッグメーカーSEALウェブサイト

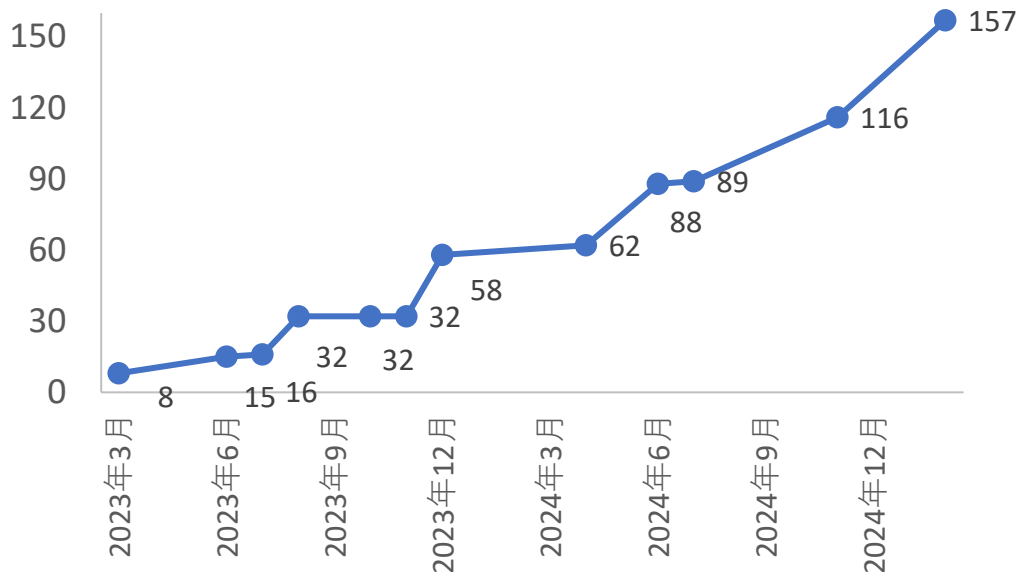
【取組状況】

中小企業の参画数を増やしていくことについて、協賛者のうち中小企業の数を進捗管理の指標とする。

(取組状況)

- ・会場整備参加、運営参加などの協賛者として、中小企業157社に参加いただき、設備機器、資材、情報システム、食品・飲料、衛生用品などを提供いただいている。(2025年2月現在)

協賛者のうち中小企業の数(者)



【博覧会協会以外が主催するイベントの例】

- ・大阪ヘルスケアパビリオン：中小企業による期間展示を実施
- ・(独)中小企業基盤整備機構、中小企業庁：中小企業による未来思考の製品、サービス、技術等を紹介する体験型展示「未来航路」を開催
- ・経済産業省：ディープテック領域を中心とした国内外のスタートアップ関係者や起業家、トップ投資家らが一堂に会する「Global Startup Expo」を開催

中小企業による会場内の協賛物品の例



一人一人がつながるコミュニティ形成に関する指標

「TEAM EXPO 2025」プログラム

(指標)

参加者の中から約3,000組を募集し、万博会場で、これまでの成果を発表するとともに、来場者、出展者同士など多くの方と「対話」し、未来社会の実現に向けた新たな「共創」を生み出すことを目指す。

【実績】

企業、教育・学術・研究機関(大学・研究所等)、国・政府関係機関(独立行政法人等)、国際機関、自治体、NGO、NPO法人、各種団体から、約2,900件の参加(2025年8月末現在)

フューチャーライフヴィレッジ(FLV)では、共創チャレンジ登録者、来場者などが参加するイベント(ミライ未来ソーダ)をはじめ、新たな共創につながる様々な交流の場を設けている。(8月7日に来場100万人を達成)

フューチャーライフヴィレッジ(FLV)での交流イベントの様子

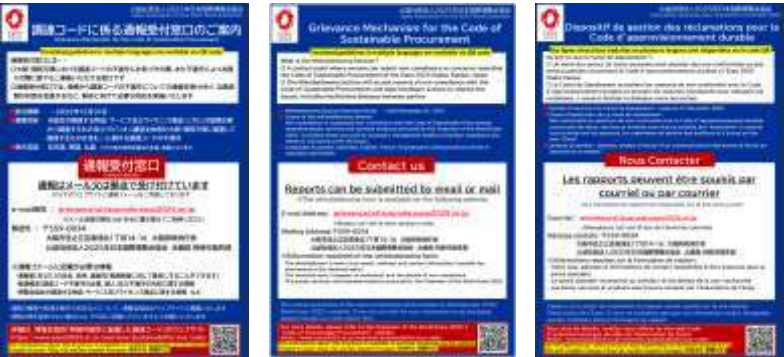


出典 EXPO COMMONS特設ページ
(<https://platform-clover.net/feature/expo-commons>)

(a)持続可能性に配慮した調達コード

【取組状況】

2022年6月 調達コード策定、公表
 博覧会協会が調達する物品・サービス及びライセンス商品の全てを対象
 2024年 遵守に関する取組状況を確認するため、協会発注建築工事、パビリオン、ライセンス事業者、ユニフォーム製造事業者を対象にヒアリングを実施
 // 7月～ 通報受付窓口を設置、9か国語の説明資料を作成、1,000以上の関係者に周知



通報受付窓口のご案内（日本語、英語、フランス語）

【実績】

調達コードに係る通報受付窓口における通報受付の状況
 受付件数 4件 （2025年4月時点）

(通報者の属性)			(通報の種別) ※重複あり		
	通報者	件数		種別	件数
	当事者	3		人権	1
	第三者	1		労働	3
				経済	3

(受付した通報の例)

受付番号	受付日	通報者	種別	通報内容	処理状況
1	2024年9月17日	第三者	人権、労働	建設資材を製造する会社における不当労働行為に関する申し立て。	2025年1月23日に処理手続を開始しない旨通報者に通知し、本通報受付窓口における手続を終了した。
2	2025年3月7日	当事者	労働、経済	パビリオン運営主体等の建設工事における請負代金不払いに関する申し立て。	2025年3月14日に処理手続の開始を決定し、通報者に通知。助言委員会を編成・開催し、通報内容に関連するより詳しい情報を収集中。

調達コード個別基準「木材」の遵守状況に関して、大屋根リング木材の調達ルート、認証材使用などについて施工者に確認

大屋根リング全体の木材使用量 約2.7万m³
 ・国産材 約7割(約1.8万m³)
 ⇒認証材(SGEC/PEFC)が一部、その他は調達コード個別基準「木材」の別紙(認証材以外の証明方法)により基準を満たす木材であることを確認
 ・外国産材 約3割(約0.9万m³)
 ⇒全数が認証材(PEFC)

(c)持続可能な取組に関する表彰

大阪・関西万博はSDGs達成の実現へ貢献するため、環境や社会への影響を適切に管理し、持続可能な万博運営をめざすとともに、地球環境問題への新たな挑戦の形を世界に示すこととしている。こうした方向性に沿い、さまざまな先進的な取り組みが実施されている。

そこで、脱炭素及び資源循環に関する課題に対して新たなソリューションを提供する優れた取り組み、「持続可能性に配慮した調達コード」への適合度が高い優れた取組を対象に、参加者のさらなる取り組みを促すとともに、レガシーとして、その成果の普及につなげることを目的に表彰を実施。(EXPO 2025 グリーンビジョンにも優れた取り組みに関する表彰の検討について記載)

3つの部門を設け、応募のあった者の中から、優れた取組を表彰予定。

持続可能性有識者委員会の各WGで審査。公式参加者については博覧会国際事務局(BIE)に結果を通知し、BIEにおいて賞を授与する予定。その他については博覧会協会の責任で賞を授与。

	賞の部門		対象となる取組	表彰対象者
持続可能な 取り組みに 関する表彰	脱炭素		会場内での省エネルギー等に関する取組	・公式参加者、非公式参加者、一般営業参加者
	資源循環		会場内でのリデュース・リユースの取組 (主にプラスチック、食品ロス削減の取組)	・公式参加者、非公式参加者、一般営業参加者 ・万博会場内にて通期で出展、営業、イベントを行う者
	調達	共通基準 (全般・環境・人権・労働・経済) 個別基準(木材・紙・農産物・ 畜産物・水産物・パーム油)	調達コードに基づく物品やサービスの調達	・調達コードの適用範囲となるサプライヤー、 ライセンサー及びパビリオン運営主体等 (公式参加者、非公式参加者、一般営業参加者、催事 参加者等)



(d)ESD（ジュニアSDGsキャンプ）

若者・子どもがSDGsや環境問題について自ら主体的に考え、
行動・態度変容につながるESD実践の場を会場内に設置

展示、SNS連動企画

SDGs、環境問題に対する国、博覧会協会、
協賛者等の取組に関するデジタル展示を実施
(タッチパネルPC10基を館内に設置)
会期前から、SNS連動企画を実施



会場内ツアー

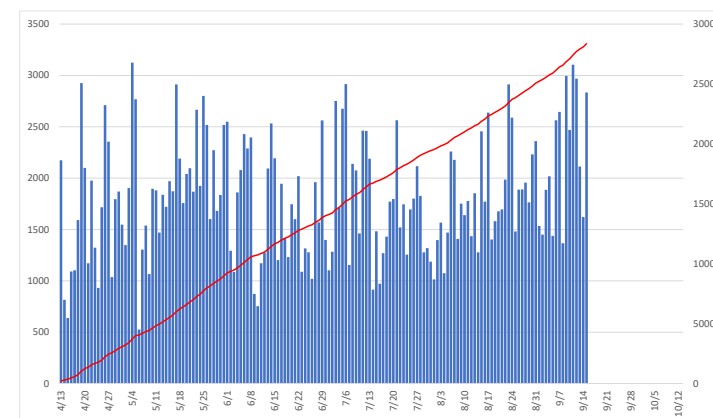
脱炭素や資源循環、建築など、テーマに沿ってガイドマップを作成
(一部はパビリオンに学生がインタビューを行い制作)
会場内に設定するコースを周り、解説する1時間程度のツアーを実施

	テーマ	ツアータイトル
A	脱炭素・資源循環	「3R+Renewable」で自らの未来を創造するデコ活ツアー
B	建築	若手建築家が手掛けるデザイナーズトイレツアー
C	脱炭素・資源循環	環境保全に特化したサステナブル体験ツアー
D	建築	建築界のノーベル賞「プリツカー賞」受賞建築家監修 パビリオン大解剖ツアー
E	建築	若手建築家が手掛けるユニークな休憩所ツアー
F	脱炭素・資源循環	再生可能エネルギーで未来創造体験ツアー
G	建築	どんな素材でできている？ ユニークな建築素材発見ツアー
H	建築	過去と未来へ繋ぐ建築？ 循環型建築ツアー
I	建築	世界が注目！木造建築ツアー
J	脱炭素・資源循環	ごみがエネルギーに？ バイオエナジー体験ツアー

来館者数 約280,000名(9月15日現在)

- 平日は大人の来場者が多い一方、若者・子どもの集客が困難
- 学校団体は滞在時間短く、来館につながらず
- プログラムの実施者、発表者として若者、子どもが参画

来館者数



(来館者数の推移)



会場内ツアーの様子



(d)ESD (ジュニアSDGsキャンプ)

体験型プログラム

SDGs、環境問題について、大学ゼミ、NPO、企業、自治体、国、博覧会協会等が制作した体験型プログラムを実施
博覧会協会が実施する環境技術に関するプログラムは事前学習の教材を提供
一部プログラムは海外パビリオン(オランダ、スイス、インドネシア)に協力いただき国際交流要素ありで実施

大阪・関西万博ESDプログラム(スイス編)

スイス人のプレゼンターを招き、国の概要やスイスでのSDGsに関する取組を紹介いただき、日本との比較や自分達にできることをディスカッション



「HANKYU こどもカレッジ」ウミガメプロジェクト ～ウミガメふれあい体験&トークショー～

ウミガメたちを守るために私たちに何ができるか、ふれあいを通して考えるプログラム



～CONNECTING YOU TO 能登～ 生物多様性(強く生き抜く生き物たち)について能登の小学生と学ぼう！

能登の自然や生きものたちの暮らしを学ぶプログラム、能登の小学生も参加し、自分たちが行っている生きものに関する活動を紹介



(出典)国連大学 サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
(UNU-IAS OUIK)ウェブサイト

(e)生物多様性

「大阪市環境影響評価条例」に基づく環境影響評価(環境アセスメント)を実施

2022年6月 環境影響評価書を大阪市に提出

2024年1月、12月 事後調査報告書にて建設工事中における陸域動植物への配慮を公表

NGOとの協働及びステークホルダー・エンゲージメントの観点から、博覧会協会が実施する鳥類の生息環境に関する保全・配慮をテーマとした共同検討を開催
(第1回:2023年9月、第2回:2024年2月、第3回:2024年9月)

セイタカシギの営巣状況(2025年7月)



2024年1月 事後調査報告書【建設工事中・その1】を公表

- ・万博会場及びその周辺での工事着手前調査結果(2022年8月、10月)
- ・建設工事中における事後調査結果(2022年10月～2023年9月)

2024年12月 事後調査報告書【建設工事中・その2】を公表

- ・舞洲万博P&R駐車場での工事着手前調査結果(2023年12月、2024年2月)
- ・建設工事中における事後調査結果[鳥類の飛来状況(夢洲・舞洲)](2023年10月～2024年9月)

⇒会期中の状況に関する事後調査結果については2026年初頭を目途に大阪市に報告予定。これと併せて取組の評価を行う。

